

土木試験所と土木研究所

土木研究所は、この9月に、内務省土木試験所の設置から数えて100周年を迎えます。寒地土木研究所は、1937年の内務省北海道庁土木部試験室の発足から北海道開発局土木試験所などを経て、85周年になります。

アニバーサリーイヤーである2022年度は「土木試験所」と「土木研究所」という単語をたびたび目にしますが、この2つが並ぶと、私にとって戒めの言葉になります。

「福島さん。土木試験所と土木研究所の違いがわかるかい？」

私の恩師である北海道大学名誉教授佐藤馨一先生に問われたことがあります。先生は、北海道開発局土木試験所にお勤めだったことがあり、寒地土木研究所の大先輩でもあります。

「福島さんは研究所の研究者かい？試験所の試験官になっていないかい？」

私のペーパーが、試験結果の単純整理の域を脱しておらず、研究論文になっていないことを上の通り評されました。もちろん当時の土木試験所を誹謗する意図はなく、土木試験所OBである先生だからこそその言い返しです。

「恥ずかしながら、ご指摘の通り苦慮しております・・・」

「恥ずかしながらと言ったけど、そもそも論文をかくことは恥をかくことなんだ。」

恥をかきたくないばかりに筆が進まない言い訳をあれこれ考えていた私に、「土木試験所と土木研究所の違いは？」という論しはグサッと刺さり、分かったつもりになっていたことが思い違いであることを認識させられました。

土木研究所100周年の今年、天命を知ると言われる五十歳になる私は、4月の人事異動で地域景観チームの上席研究員としてスタートを切ることとなりました。

景観工学に関する研究開発成果の最大化への貢献が私の天命だと信じるならば、「土木研究所の研究員として恥をかき論文をかく」ことが、人事を尽くす第一歩だとあらためて思い至った次第です。

(地域景観チーム上席研究員 福島 宏文)

* * * *

表紙右上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。